

## 研究活動報告

### 第12回 ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合

厚生労働省では2003年から、ASEAN10ヵ国の社会保障、保健医療、雇用の3分野の担当省庁のハイレベル行政官を日本に招聘し、年ごとに異なったテーマで会合を開催している。第12回目となる今年は、「高齢化する社会に対応するしなやかなコミュニティを育む」をテーマに、10月21日（火）から10月23日（木）の期間、東京都港区の品川プリンスホテル内でのセミナー、関東圏の病院・老人福祉施設訪問、地域レベルの高齢者保健・福祉・介護・まちづくりの視察が行われた。

セミナーは①コミュニティの能力を活用した高齢者の健康・生活支援、②高齢者の介護サービスと人材育成、③高齢者にやさしい街づくり、④高齢者の社会参加及び社会貢献、⑤高齢化に関するASEANの協力と連携という5つのセッションに分かれていたが、筆者は④のモデレーターを担当した。ASEAN各国の行政官は、寿命が長い日本で、高齢者がどのように活躍しているのか、特にシルバー人材センターやJICAのシニアボランティアなどが、どのようなしくみで機能しているのか、といった具体的な質問が挙がった。

会場では、先進技術を用いた高齢者用の用具や食材などの紹介が行われ、試食コーナーも設けられた。ブルネイなど高所得の国ではニーズも高いが、イスラームに則ったハラール認定があることが重要、との指摘を日本側が受け取るような場面もあった。ASEANにおける人口高齢化は本格化しており、今後も継続した情報交流が有用であると思われた。（林 玲子 記）

### 日本社会学会第87回大会

日本社会学会第87回大会は、2014年11月22日（土）～23日（日）に神戸大学（文理農学部キャンパス）にて開催された。45の一般部会（うち英語セッションが3）、6のテーマセッション（うち1つは研究活動委員会企画テーマセッション）、日韓ジョイントパネル、若手フォーラム、14のポスターセッションにおいて多数の研究報告が行われた。シンポジウムは第2日目の午後に行われ、扱われたテーマは「〈当事者宣言〉の社会学：カムアウトからカテゴリー構築まで」「変容する企業中心社会の男性学的解剖」「古典と現代：社会学におけるデュルケーム学派の今日的意義（開催校シンポジウム）」の3つであった。

今回は、日本社会学会が同年7月に招致した第18回世界社会学会議・横浜大会開催後の定例年次大会であったため、第1日目の総会後、国際社会学会（ISA）会長 Margaret Abraham 氏（Hofstra University）による会長講演も行われた。

本研究所からは、一般部会の「家族(1)」において岩澤美帆・守泉理恵が「強まる女兒選好とその背景：第3子への挑戦から見る日本の役割」を報告した。例年、幅広いテーマで数多くの部会が成立し、研究報告が行われる本学会であるが、今回大会では、人口分野に関連する一般報告として、妊娠と出生前検査の経験についてのアンケート調査結果に関する一連の報告、韓国の結婚・子育て、高等教育と女性の結婚タイミング、JGSS-2009/2013ライフコース・パネル調査の分析結果に関する一連の報告、高度人材の国際移動、中高年層の社会保障に対する意識や高齢者女性の就労、子育て支援のジェンダー論的検討などがあった。また、テーマセッションの一つには「移動する子ども・若者」